

1. 職名及び人員 助教 1名
2. 所属 生物資源科学部 アグリビジネス学科 アグリテクノロジーグループ
3. 専門分野 農業生産学分野
農業生産学分野では、土地利用型作物の生産性を高める技術開発研究に取り組んでいます。本分野に、環境負荷の低減と収益向上に寄与する新たな作付け体系や土地利用型生産技術について研究する領域を加えます。そのため、作物、緑肥作物、あるいは園芸作物等における栽培学の素養を有し、今後、新たな作付け体系・土地利用型生産の技術開発研究に取り組むとともに、フィールド等における実践的な教育を行い、地域農業の振興に熱意を持ってあたることができる人材を求めます。
4. 担当授業科目 稲生産学（分担）、畑作生産学（分担）、プロジェクト実習・演習・実験（分担）、プロジェクト卒業研究（分担）、化学Ⅰ（分担）、化学・生物学実験Ⅰ（分担）など
5. 応募資格 (1) 博士の学位を有すること、または採用予定日までに取得見込みであること
(2) 当該分野の教育と研究に熱意を持っていること、地域貢献にも意欲を持っていること
(3) 国籍は問わないが、日本語が堪能であること
(4) 採用が決定した場合、確実に着任できること
6. 採用予定日 令和6年4月1日
7. 勤務条件等 (1) 身分 公立大学法人職員
(2) 給与 職位・業績・職務内容に応じた年俸制（本学給与規程による。）
(3) 勤務 裁量労働制
(4) 任期 5年の任期制（再任回数に制限はありません。）
(5) 定年 67歳
8. 応募書類 (1) 履歴書（本学所定の様式1による。＊）
(2) 研究業績書（本学所定の様式2による。＊）研究業績は、①学術論文（査読付き）、②国際会議発表論文（査読付き）、③その他に分類して記載してください。また、主要なもの3編に○をつけてください。
(3) 主要論文3編（コピー可）
(4) これまでの研究、教育及び社会活動（地域貢献を含む。）の概要（1,000字程度）
(5) 教育に対する抱負（1,000字程度）
(6) 研究・地域貢献に対する抱負（1,000字程度）
(7) 応募者について意見を求めることができる推薦者2名の氏名と連絡先
(8) 科研費等外部資金獲得の実績がある場合は、過去5年間における獲得状況の一覧
注）＊印：履歴書（様式1）及び研究業績書（様式2）については、ホームページ（<https://www.akita-pu.ac.jp/about/saiyo/>）をご参照ください。
9. 応募締め切り 令和5年8月18日（金）必着
10. 選考方法 (1) 第一次選考 提出書類審査、学部選考委員会による面接
(2) 第二次選考 プレゼンテーション、役員による面接
※第一次選考及び第二次選考の面接はオンラインで実施する場合があります。
※対面にて面接を実施する場合の旅費等は自己負担となります。
※第一次選考の学部選考委員会による面接時に授業担当能力を評価します。
11. 応募書類の提出先及び問い合わせ先
〒010-0444 秋田県南秋田郡大潟村字南2-2
秋田県立大学生物資源科学部 大潟キャンパス アグリビジネス学科助教選考委員長 露崎 浩
TEL：0185-45-3907（ダイヤルイン）、E-mail：tuyuzaki@akita-pu.ac.jp
※封筒の表に「農業生産学分野教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留で送付してください。
応募書類は返却しません。
12. その他 本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

今回の公募で求める人材像

アグリビジネス学科では、農業・食料関連産業のイノベーションと次世代型アグリビジネス創成のための研究・教育・地域貢献を生産技術、生産環境、社会経済の領域で展開しています。その中でアグリテクノロジーグループの農業生産学分野では、イネ・ダイズ・ムギ類等の土地利用型作物を対象に、その安定・多収および省力・低コストに寄与する技術開発に取り組んでいます。

近年、減化学肥料および減農薬での栽培を可能とする緑肥作物を組み込んだ作付け体系が開発され普及が始まっています。また、国は食料自給率の向上を目指し、水田の汎用化や畑地化を推進し高収益化を図るとしており、田畑輪換栽培や畑作物に露地野菜を組み込むなどした新たな土地利用型生産の技術開発が求められています。このような時代のニーズに応えるため、農業生産学の既存2領域（稲生産学領域、畑作生産学領域）に、作付け体系や土地利用型生産について栽培学的に研究する領域を加え、次世代の土地利用型農業の研究を展開・推進することとしました。

そのため、本学科では、作物、緑肥作物あるいは園芸作物等における栽培学の素養を有し、今後、新たな作付け体系や土地利用型生産の技術開発研究に意欲的に取り組む人材を求めます。

また、生物学や化学を基盤とした作物学分野の講義や実験・実習に意欲的に取り組み、本分野が推進している土地利用型農業の展開においても、専門領域間の連携を図り、フィールド等において実践的な教育を行い、地域農業への貢献に熱意を持ってあたることができる若手の人材を求めます。

教育・研究・地域貢献における具体的な人材像は下記のとおりです。

[教育]

本学科のディプロマポリシーおよびプロジェクト教育の内容を十分に理解し、生物学や化学を基盤とした作物生産学に関する講義や実験・実習に取り組める人材、さらには、アグライノベーション教育研究センターや地域を活用した実践的な作物生産学教育にも熱意を持ってあたることのできる人材を求めます。

[研究]

農業生産学分野において、栽培学の素養を有し、今後、新たな作付け体系・土地利用型生産の技術開発研究を展開し、環境負荷低減と収益向上を図る次世代型アグリテクノロジーの創出に意欲的に取り組める若手の人材を求めます。

[地域貢献]

秋田県内の農業生産に関わる諸課題の解決、および農業生産振興に資するため研究成果を地域社会に還元することに熱意がある人材を求めます。

本学は、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づき、女性活躍のための支援、環境整備に努めており、女性研究者の積極的な応募を歓迎します。

アグリビジネス学科 大講座制グループ構成

基本方針： アグリビジネス学科では、3研究グループ体制を堅持し、先進的な農業技術やアグリビジネスに関する研究を推進するとともに、それらを提案する能力のある人材を育成するための教育を行う。

アグリビジネス学講座

●アグリテクノロジー グループ

地域の自然的特性及び資源に基づく持続可能な作物・園芸・家畜生産の実用的先進的技術革新

農業生産学：イネ、ムギ、ダイズ等土地利用型作物、栽培技術の技術革新、イネの遺伝学的研究

園芸生産利用学：競争力を持つ生産技術・実用技術開発、リンゴ矮化栽培の技術確立、福祉や教育の場面における園芸活動、鉢物花きの栽培と繁殖の効率改善、ヤマノイモの新規生産技術の開発

畜産資源利用学：資源循環型の肉用牛生産のための畜産技術研究、未利用資源の飼料化を含む畜産資源循環利用、動物機能制御技術の開発

●ルーラルエンジニアリング グループ

地域環境水文学、農業水利学、農地防災保全学、生産システム工学による農業の高度化・体質強化を支える生産基盤整備に関する研究を行う

農地や水利システムの多面的機能を活用した流域管理、水管理構造と環境への影響評価、農村水系における自然浄化機能の活用、農地防災保全学による水利施設の安全設計、ICT活用による農業技術革新、高度な情報処理による新たな圃場生産システム構築

●アグリビジネスマネジメント グループ

経営、流通、政策・経済、社会の分野から、地域農業ビジネス、地域資源活用ビジネスの将来像を提案

農業構造等に影響を与える農業政策の分析と評価、農業経営及び地域農業構造の実態分析、新たなビジネスの構造と展開、流通場面における持続的発展の条件等についての実証分析、地域ビジネスの主体形成のあり方や支援方策の提案

アグリイノベーション教育研究センター

●フィールド農学 グループ

農業を核とした地域及び地域産業の活性化に関する理論や技術を修得し、実社会の要請に応える農業振興や生物関連産業等に携わる人材の養成

- ・農業機械・作業管理：自立・無人での新しい機械化作業技術
- ・作物生産：有機農法での雑草抑制（水田ロボット除草機）、大豆畑への帰化雑草の侵入実態の解明と適応戦略）
- ・果樹園芸：キイチゴ属植物の遺伝資源の収集、評価及び利用、キイチゴ（ラズベリー）の栽培体系の確立
- ・家畜資源利用：生体のストレス緩和から食肉呈味品質の改善にまで及ぶ機能成分・特殊飼料の研究・開発、ニワトリにおけるビタミン様作用因子リボ酸の代謝調節機能とその実用的用途